

## 敗戦80年、航空自衛隊創立 71 年に際しての申し入れ

小牧基地指令 鮫島建一様  
隊員の皆様へ

敗戦 80 年の今、とりわけトランプ再登場に直面している今、「日本は本当にこのままでいいのか」という疑問と不安の声が広まっています。思考停止して、「このままでいい」という人と、「再び日本は破滅に向かってしまう。」という人々に大きく二分されています。この二分化とは、「アメリカの要求を受け入れることが日本の利益になる」と信じる人々と「このままでは日本の利益と安全が吸い取られてしまう」と考える人々との二分化です。自衛官の皆さまと無縁ではありません。

政府は繰り返し、オウムのように「わが国は戦後最も厳しい安全保障環境に直面している」と言い続けながら、今国会では与野党ともに議題にもなりません。防衛省の発表によれば過去 5 年間毎年 5 千人以上の自衛官が退職しています。軍事組織にとって若い自衛官が辞め、また入隊者が減少することは、組織解体につながります。これも社会の二分化の影響と読み取れます。「日本のためではなくアメリカ軍の指揮下で死んでたまるか」という行動理念への疑問だと思います。兵器が高度化しても、兵士としての自衛官がそれについていくわけではありません。

私たちの申し入れの基本は「自衛官も私たちと同じ人間であり、兵士である前に一人の市民である」という信念から来ています。以下、申し入れます。

戦後 80 年という区切りであって各分野で戦前の責任者、その戦後の処遇に対しての研究が進んでいます。東京大空襲の 3 月 10 日、国会内でカーチス・ルメイの叙勲取り消しを求める動きがありました。航空自衛隊のOBの方々に知らない人はいないと思います。無差別爆撃の任務を B29 の大編隊を使って計画し、指揮したアメリカ空軍の将軍です。このあと、広島・長崎への原爆投下作戦の準備をした軍人でもあり、徹底的な軍事合理主義者です。「総力戦では、軍人も民間人もない、そして、味方の戦死者を少なくし、敵を全滅させる。核兵器もただの兵器にすぎない」と言い続け、中国やベトナムへの核使用を提言した人物です。戦後、帝国旧陸軍や海軍の航空部隊の生き残りを集めさせ、アメリカ軍の旧式機を提供し、現在の航空自衛隊の創設に大きく貢献したことで 1964 年、当時の佐藤栄作内閣より日本の最高位の勲一等旭日大綬章が与えられました。

それから、61 年の本年 3 月 10 日、沖縄ではよく知られている具志堅隆松氏らが、内閣府賞勲局に叙勲の取り消し要請を行いました。具志堅氏は、長らく沖縄南部での地上戦における遺骨収集活動を市民団体「ガマフヤー」の代表として活動されています。具志堅氏は「ルメイ氏への授与は、日本人への大量殺戮を見逃す反国民的行為であり、加害者を褒めたたえることは受け入れることはできない。取り消されるまで声をあげ続ける」と語っています。

カーチス・ルメイは、朝鮮戦争中、日本の空をアメリカ空軍の補助部隊として航空自衛隊創設を考えてきた人物であり、首都東京の管制権を日本に返すことに断固反対した人物でもあります。71 年前、このようにして航空自衛隊ができたこと、71 年後、カーチス・ルメイの思惑通りになりつつあることを自覚していただきたいと思います。

3 月 14 日、中谷防衛大臣は、記者会見で石破首相が米国から購入意欲を示した「C-17」大型輸送機について「自衛隊への導入はありえない」と発言しました。トランプ大統領との会談で大型輸送機の購入に前から意欲を持っていたことを伝え、トランプ大統領側は歓迎しました。前からとは、小泉政権時代、イラク派兵の時の防衛庁長官として C-17 の導入に意欲を示していたこ

とです。

C-130輸送機よりも3倍の航続距離、3倍の積載量を持ち、イラク戦争以後、世界展開させたい航空自衛隊が必要だという思いが、今回のトランプ大統領との話になったと思われます。

最高司令官の意欲を部下の防衛大臣が完全否定したことになります。「C-17は、10年前に製造を中止し、部品も含めすべての調達ができない状況になり、本気でこれを求める人はまずいないと思う」と発言しています。小牧基地としても中谷防衛大臣の意見に賛成することを防衛省に伝えてもらいたいと思います。

最後になりますが、ジブチの自衛隊基地についてです。海賊対処法が目的であったはずのアデン湾にもう海賊はいません。引き上げるところか、政府は2023年10月7日以降、現地部隊の任務を拡大し、邦人保護の拠点化、情報収集の拠点化、他国部隊との交流強化拠点として、必要な装備の集積地としています。ジブチが平和的な、平時の地域ではないことは、アデン湾も紅海の海上も空域も、10・7以降戦闘地域とアメリカ軍が指定していることでわかります。

10.7以降、イエメンのフーシ派は、事実上交戦状態になり、最近もフーシ派に対するアメリカ空軍の攻撃もありました。航空自衛隊は、軍事的にも極めて危険な空域を使つての物資輸送であることを自覚しているのでしょうか。全国の基地の中でも、小牧基地こそがイラク戦争時の経験から、戦闘空域への輸送機の運用の危険性を知っているはずで、美保基地と共に「戦闘地域が解除されない限り、輸送機の運用はできない」と防衛大臣に上申していただくことを強く申し入れます。

戦後80年、やはり日本は戦争を放棄した国であることをアメリカに対し、中国に対し発信し続けることを確認しての申し入れです。

2025年3月22日

不戦へのネットワーク

名古屋市中村区那古野1の44の17 嶋田ビル203

TEL050-3593-5130